

# ざっこざわかまあと 寂光沢窯跡

## － 岩舟町小野寺地内－

佐野市と岩舟町の境にある<sup>みかもやま</sup>三毳山の周辺には、約 40 箇所の窯跡があることがわかっており、「三毳山麓窯跡群」と呼ばれています。古代下野国の窯業の一大中心地でした。寂光沢窯跡もこの窯跡群の一つです。三毳山の北側を南北に流れる三杉川に沿って盆地があり、窯跡はこの盆地西側の斜面に立地しています。平成 16・17 年度に、北関東自動車道建設に先立って発掘調査を行い、3 つの窯跡を発見しました。器（須恵器）や役所・寺院の屋根にふ葺かれる瓦が多数出土しました。

# 須恵器

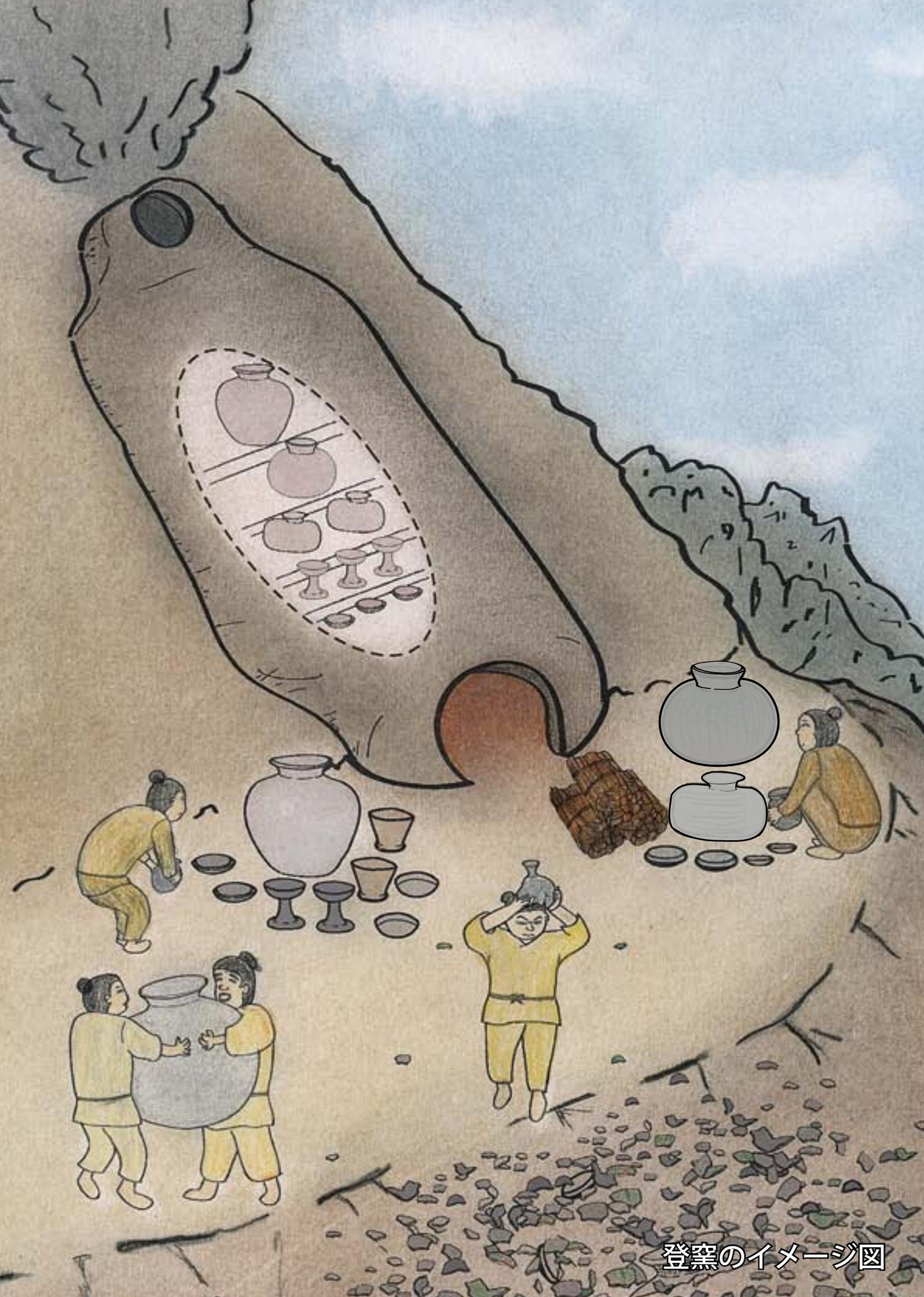
ろくろ 轆轤で形を仕上げ、かま 窯を使って 1000℃以上の高温で焼かれた土器を「須恵器」と呼びます。窯を密閉し、空気を遮断して焼き上げるため独特な灰色に焼き上がります。栃木県では古墳時代の終わり頃から、平安時代の初め頃まで作られました。

## 窯 のぼりがま (登窯)

須恵器や瓦を焼く施設で、粘土などで壁や天井を作り、野焼きよりも高温で焼くことができます。斜面に築き、床が傾斜しているものは、登窯と呼ばれます。窯の中に、器や瓦を並べて、大量に焼きました。



登窯



登窯のイメージ図